

高齢者作品展

～8日(火)
館 1階 ギャラリー



書、日本画、水墨画、洋画、陶芸、ちぎり絵、彫刻、写真、手工芸と、多彩なジャンルにわたり、長年培ってきた技術と精神を活かした、見事な作品136点が会場に並んだ。



最高齢、最多出品の
堀 淳様の書

出展して 一般 堀口 泰夫



出展資格が60歳以上なので、61歳を迎えたところで勇気を持って出展をしました。

ジャンルは鉄道模型。この分野は、素材は既存品ですが、それをいかにアレンジして情景を演出するかということがテーマになります。また、フルサイズのレイアウトではなく、風景を切り取った、A4サイズのシーナリーセクションで作成しました。

情景は、私の好きな福島中通り地方の枝垂桜の巨木を主人公に、架空の地方私鉄で廃線直前だという設定です。ところが、ストラクチャーや車両の桜が考えていた以上に大変。枝は0.3ミリの銅線なので、接着剤で入院の破目に陥り、病棟職員の目を盗んで指先をボンドで切りに間に合わせることが出来ました。

大黒様や、丘に立ち並ぶ山神様、二軸気動車をカメラで狙う迎える旦那さん、花見の酒盛り真っ最中の村人たちと、小さな物では大満足です。でも、見る方にとっては小さいので、困った作品

第44回 芸能発表大会

期 日 平成29年6月30日(金)
会 場 茨城県立県民文化センター 小ホール
出場者 29クラブ(地区)295人 応援者41クラブ161人 一般観覧者77人



よう、出演者の緊張感と熱気が伝わってくる。

3年前より、「広報みと」にこの大会の一般公開記事を掲載するようになり、家族や会員の友人、一般の方々の観覧も増えてきている。芸能発表大会は練習や発表会を観覧して、クラブに加入する方が多いというクラブの会長さんの声も聞く。

「今回は、衣装も趣向を凝らし、演技も質の高い大会だった」との多くの感想が寄せられた。また、何より嬉しかったのは、どのクラブも限られた楽屋をお互い譲り合い、和気あいあいと穏やかな雰囲気であった。「仲間同士がお互いを思いやり、楽しんで参加できる」これこそが高齢者クラブの良さであり水戸の自慢である。



日本舞踊に挑戦

芸能発表大会参加のため、前年の10月から月2回の練習を始めました。「衣装は、Tシャツよりも着物のほうが良いのかな。」などと周りからの声があり、また、幸いにも民舞を習っていた方々から着物の寄付を頂くことができたので、早速「嵯峨野ひぐれて」の曲に挑戦することになりました。

練習を始めると、メンバーの半数が初心者でしたので、扇の使い方、手の動き、足の運びの所作など、覚えるのに大変苦労しました。

大会当日は濃い目の口紅、帯を一字にキリリと締めて、はんなり着物美人に変身。舞台に立てた感動と喜びを噛みしめながら、きっちり舞台を務めることができて、苦労した稽古の成果を披露することができました。

未熟な私たちではありますが、次回の檜舞台に向けて、皆様の協力をいただきながら、仲間同士楽しんで頑張りたいと思っています。

三の丸喜楽会第二クラブ 遠藤 弘子



私たちは水戸市高齢者クラブ連合会の活動を応援しています

第54回